

# 令和5年度 賛助員会報告書

学 校 法 人 学 習 院

## 目 次

1.	賛助員の皆様へメッセージ	1
2.	賛助員会について	2
3.	学習院創立 150 周年記念事業統括部門の現況	3～4
4.	企画部門の現況	5
5.	総務部門の現況	6
6.	人事部門の現況	7
7.	財務部門の現況	8～9
8.	施設部門の現況	10～11
9.	「学習院 VISION150」推進募金の現況	12～13
10.	令和 4 年度卒業生就職状況	14～15
11.	令和 5 年度入学試験結果	16
12.	父母会・桜友会・常磐会	17

### 1. 賛助員の皆様へメッセージ（学習院長 耀 英一）



日頃より、本院の教育研究活動に、格別のご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

学校法人学習院は 1877 年に創立され、2027 年には創立 150 周年を迎える長い歴史と伝統の中で、学則総記に掲げております「幼児の保育から大学教育に至る一貫した教養を与え、高潔な人格、確乎とした識見並びに近代人にふさわしい健全で豊かな思想感情を培い、これによって人類と祖国に奉仕する人材を育成する」ことの具現化に取り組んでおります。今日に至る歴史と伝統を礎として、本質的なものを忘れず、今後待ち受ける様々な事象や変化に臆することなく対応していく学習院として、未来へ躍動し、選ばれる学校でありたいと考えております。その目標達成のためには盤石な財務基盤が是非とも必要となります。学習院の更なる飛躍のために、今後とも皆様の絶大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## **2.賛助員会について**

賛助員会は、学校法人学習院校規第 30 条に基づき学習院長が委嘱した賛助員（学習院に対する一定価額以上の財産寄付者）によって組織され、本院が現況報告を行い、その事業運営に関し賛助員各位よりご意見を伺うことを目的に、原則として年一回開催しております。

令和 5 年 10 月 1 日現在、賛助員の数は各種法人賛助員 77 団体、個人賛助員 2,134 名の合計 2,211 名です。又、前記寄付の一定価額は平成 12 年 10 月 24 日付で改定を行い、現在法人 1,000 万円、個人 100 万円となっています。

なお、賛助員の方々には本院校外施設の利用、学習院広報の定期的送付（7 月、12 月の年 2 回）等の便宜をご提供申し上げております。

（参考）学校法人学習院校規（抜粋）

（賛助員及び賛助員会）

第 30 条 この法人に、賛助員を置く。

- 2 賛助員は、この法人に対し一定価額以上の財産を寄附した者のうちから院長が委嘱する。
- 3 賛助員は、賛助員会を組織する。
- 4 賛助員会は、院長が招集し、その議長は、そのつど出席賛助員の互選で決める。
- 5 賛助員会は、この法人の運営に関し院長に意見を述べることができる。

### 3. 学習院創立 150 周年記念事業統括部門の現況

#### (1) 創立 150 周年記念シンボルマーク

在校生からのデザイン公募により制定した創立 150 周年記念シンボルマークは、令和 4 年 5 月 2 日付で商標登録が完了したことを受け、令和 4 年 7 月より職員名刺、法人所管封筒に使用することとし、各デザインを一新しました。また、シンボルマーク浸透施策の一環として、学習院蓼々会オリジナル商品（菓子、ワイン、エコバッグ、ピンバッジ）への展開、シンボルマークシールや大学卒業式用の手提げ袋を製作しました。その他、各種広報誌や学校案内等の印刷物にシンボルマークを付すよう依頼すると共に、教職員に対しては、e-mail 署名欄に周年文言を加えるよう協力を要請する等、学内外へ向けて創立 150 周年を PR する活動を推進しています。



学習院創立 150 周年記念シンボルマーク  
商標登録第 6551618 号

#### (2) 創立 150 周年第 1 回記念事業「講演会」

令和 9 年に迎える学習院創立 150 周年に向けて、開院記念日のある 10 月に、毎年学習院とゆかりの深い方をお招きし、周年記念事業を実施することとしています。

令和 4 年 10 月 15 日、目白キャンパスの学習院創立百周年記念会館において、創立 150 周年第 1 回記念事業「講演会」を開催しました。

開会のオープニング映像として、学習院の軌跡をたどるショートムービー「学習院 150 年の歩み」を制作し、上映しました。本ショートムービーは、他部門主催の各種行事等で上映したいとの要望があり、広く活用されています。

講演会には来賓として、女子中・高等科、大学法学部卒業生の永岡桂子文部科学大臣をお招きし、ご挨拶をいただきました。記念すべき第 1 回目は、高等科の卒業生で学習院と大変ゆかりの深い一般社団法人霞会館（華族会館の後身）の鷹司尚武理事長にご登壇いただきました。「学習院創立 150 周年に向けて、その原点」と題した内容で、学習院の黎明期を中心にご講演いただき、未来へ向けた力強いメッセージも頂戴しました。講演会の様子やショートムービーは、令和 4 年 9 月に立ち上げた「学習院創立 150 周年記念事業特設サイト(<https://150shunen.com/>)」に掲出し、広く一般の方々も視聴できる環境を整えています。



### (3) 創立 150 周年第 2 回記念事業「音楽会」

第 2 回記念事業は、テノール歌手の秋川雅史氏をお迎えし、令和 5 年 10 月 7 日、目白キャンパスの学習院創立百周年記念会館において、「音楽会」を開催します。

学習院の周年企画にふさわしい内容として、音楽会第 1 部では、初等科と女子中・高等科で大切に歌い継がれている歌を紹介し、秋川氏に独唱していただきます。第 2 部では、初等科から大学までの在校生代表 133 名と秋川氏が学習院院歌を合唱し、歌詞に込められた「学習院よ永遠なれ」という想いに共感し、心を紡いで歌声を響かせます。

初等科から大学までの在校生が一同に会して学習院院歌を歌う企画は初の試みであるため、各学校の全面的な協力を得て、秋川氏と共に合同練習会を 2 回行いました。練習を重ねるごとに一体感が増しており、本番では美しいハーモニーを奏で、心温まる和やかな音楽会となるよう取り組んでいます。

音楽会の様子は「学習院創立 150 周年記念事業特設サイト (<https://150shunen.com/>)」で令和 5 年 11 月初旬頃、ご視聴いただける予定です。



学習院創立150周年  
第2回記念事業「音楽会」

秋川さんと院歌を歌おう  
学習院の想いに集う私たち

令和5年  
10月7日 土曜日  
15時～16時30分  
学校法人 学習院  
目白キャンパス  
創立百周年記念会館正堂



秋川 雅史氏  
(あきかわ まさよし)

昭和42年10月11日、愛媛県西条市生まれ。4歳よりバイオリンとピアノをはじめ。後に父の指導のもとに声楽へと転向する。国立音楽大学・国立音楽大学院にて中村健氏の指導を受けた後、4年間イタリアのパルマで、デリオ・ボレンギ氏に師事。帰国後、第9のソロや数々のコンサートに出演。「千の風になって」がアルバム「威風堂々」よりシングルカット。2006年「第57回NHK紅白歌合戦」に初出場。翌年「千の風になって」がミリオンセールスを記録し、オリコン年間チャートで1位を獲得。現在も、全国で精力的にコンサートを行う。

入場料無料 事前のお申し込みが必要です。申し込みが定員数を超えた場合は抽選となります。

応募期間 令和5年9月5日(火)10:00～  
令和5年9月19日(火)23:59



## 4. 企画部門の現況

### (1)ブランド力の向上に向けた取組み

総合企画部企画課では、中期計画「学習院 VISION150」の実施計画として、「学習院アイデンティティの涵養と発信によるブランドの向上」を掲げています。当計画では、学園の社会的存在意義をあらためて考え、それを踏まえた各学校の特長や取組みを整理したうえでブランディング活動を展開することにより、本院における教育・研究の特色の明確化を図ります。また、当計画を起点にして、少子化や学校間競争の熾烈化により他校との差別化が一層求められる状況下において、令和9（2027）年に迎える学習院創立150周年の先に向けて、学園としてどのように社会的存在価値を高めていくのかを考え、令和10年度に開始する次の将来計画に繋げることで、本院の特色の更なる強化を図ります。

構想内容として、はじめに、令和6年度に法人と各学校が一体となって、本院が進む方向性、すなわち経営の上位概念として、これからの社会における本院の社会的存在意義（パーパス）と、その実現のために教職員が持つべき価値観（バリューズ）を検討します。それを踏まえて、令和7年度に各学校の特長や取組みを整理し、これらをブランドブックとして取り纏め、各種イベントや広報活動等で活用するほか、令和8年度以降は広報課においてブランディング活動を継続的に展開します。また、将来計画への展開においては、令和7年度に各学校の現状を確認する過程で、課題等についても洗い出し、内外分析等も踏まえて、法人全体のビジョンや重点課題を設定したうえで、実施計画を策定することとしています。

### 構 想

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
ブランディング	ブランディング検討部会  ■本院の社会的存在意義としてパーパスを策定 ■教職員の行動規範としてバリューズを策定	各学校WG  ■パーパス・バリューズ共有 ■各学校の特長や取組の洗い出し ■パーパス実現のための課題抽出	企画課 ■ブランドブック作成  広報課 ■ブランドマネジメント策定 ■インナーブランディング ■アウターブランディング	広報課 ■インナーブランディング ■アウターブランディング ※令和10年度以降も継続
			将来計画策定委員会 ■将来計画骨子の策定 学園経営方針（パーパス・バリューズ・ビジョン）、法人全体の重点課題、KGIなど  各学校・法人本部 ■実施計画の検討	将来計画策定委員会 ■実施計画の取り纏め ■実施計画に対するKPI設定
将来計画				

## 5. 総務部門の現況

### (1)情報セキュリティ対策強化

標的型攻撃をはじめとする昨今の情報セキュリティ脅威の増大に伴い、本院の情報資産を守るため、令和4年度から引き続き次の対策を実施しています。

- 技術的対策

令和4年度に実施した対策を継続し、危険性が疑われるメール添付ファイルの一時隔離や学外からのメール利用時の環境変更など、情報セキュリティの維持に努めています。

- 人的対策

教職員一人ひとりが情報事故のリスクを身近なものとして認識し常に注意して行動しなければならないことから、令和4年度に、全教職員に対する標的型攻撃メール訓練及び情報セキュリティ e-Learning 研修を実施しました。初回の訓練実施後に研修を行い、一定期間後に2回目の訓練を実施したところ、メール受信時の行動に顕著な改善が見られたことを確認しました(2回目の訓練後、1回目と異なる内容の研修を行いました)。令和5年度も、同様の訓練及び研修を実施しています。

今後も情報セキュリティポリシーに沿った行動が実行されるよう、教職員の意識向上を促す取組みを続行して参ります。

### (2)学習院ガバナンス・コードの策定と点検・確認

本院は、学習院大学及び学習院女子大学の2つの高等教育機関を運営する学校法人としての設置者責任を果たすため、また、時代の変化に柔軟に対応し、持続的に発展することが可能となる自律的な運営体制の確立・強化を目指すため、一般社団法人日本私立大学連盟が定め公表する「私立大学ガバナンス・コード」に準拠した「学習院ガバナンス・コード」を策定し、その遵守状況の点検・確認を行いました。点検・確認結果は、毎年度末に法人ホームページにおいて公表いたします。また、令和4年度は新たに、理事・監事に対する研修機会として「学校法人のガバナンス改革と私立学校法改正」と題した研修会を開催しました。令和5年度は、理事・監事に評議員も加えて「学校法人会計基準—基本金と収支差額—」をテーマに研修会を開催しました。

令和7年4月1日施行の改正私立学校法においても、「役員、外部の理事・評議員への研修機会の確保や必要な情報提供を行う」ことが示されており、本院においても引き続き、継続的な研修機会の提供とその充実を図って参ります。

## **6. 人事部門の現況**

### **(1) 教職員が停年した後の再雇用制度について**

改正高年齢者雇用安定法の施行に伴い、70歳までの就業確保が努力義務になったことから、令和4年度より嘱託職員の雇用年齢の上限をこれまでの65歳から70歳に引き上げ、職員の停年退職者の再雇用を一部試行しました。また、高等科から幼稚園までの各学校との協議を経て、65歳から70歳までの高年齢者を対象とした新しい職種として特任教諭を創設し、令和5年度より当該制度を施行することとしました。

### **(2) 職員の能力開発と事務組織の活性化について**

学校間のし烈な競争を勝ち抜くために、新規事業への人的資源投入は必要不可欠であり、総人件費を抑制しつつも、新たな事業展開に対応できる事務組織を目指し、事務組織全体の底上げ・活性化を図る施策を行うことを現中期計画で掲げております。令和4年度におきましては、職員の人事・給与制度の修正・見直しの検討にあたり、現状分析を行い、修正・見直しの前段階として、職員職能資格規程における昇格の基準を実態に合わせて改正しました。また、専任職員採用選考については、新卒・経験者採用に加え、出産・育児・介護・留学等の事情で退職した職員を対象とした募集を検討・実施しました。退職者の再雇用は、退職前の経験により、即戦力として組織の活性化が図れることが見込まれ、募集形態としての有効性を引き続き検証したいと考えております。



## 7. 財務部門の現況

### (1)財務状況

令和4年度の事業活動収支計算書における「基本金組入前当年度収支差額」は、158百万円の収入超過（対予算比：1,667百万円増）となり、「基本金」815百万円を組み入れた後の「当年度収支差額」は657百万円の支出超過（対予算比：1,388百万円増）となりました。

学校の経営状況を表す「事業活動収支差額比率※」は、0.7%となり前年度（8.3%）より7.6ポイント低下し、全国平均(令和3年度：6.4%)を大きく下回る結果となりました。

収支悪化の主な要因として、収入面では大学の経常費補助金の減収、支出面では大学東1号館の竣工、女子大学4号館・女子中等科B館耐震改修工事が挙げられます。

※基本金組入前当年度収支差額÷事業活動収入×100

・事業活動収支計算書（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

(単位：百万円)

		予	算	決	算	差	異
教育活動収支	事業活動収入の部						
	学生生徒等納付金	15,778		15,882		△ 104	
	手数料	744		779		△ 35	
	寄付金	455		546		△ 91	
	経常費等補助金	1,945		2,096		△ 151	
	付随事業収入	184		249		△ 65	
	雑収入	624		710		△ 86	
	教育活動収入計	19,731		20,262		△ 531	
	事業活動支出の部						
	人件費	12,210		11,891		319	
	教育研究経費	8,375		7,928		447	
	管理経費	1,241		1,159		82	
	徴収不能額等	0		0		0	
	教育活動支出計	21,826		20,978		848	
教育活動収支差額	△ 2,095		△ 717		△ 1,378		
教育活動外収支	事業活動収入の部						
	教育活動外収入計	268		493		△ 225	
	事業活動支出の部						
	教育活動外支出計	0		0		0	
教育活動外収支差額	268		493		△ 225		
経常収支差額		△ 1,827		△ 224		△ 1,603	
特別収支	事業活動収入の部						
	特別収入計	383		431		△ 48	
	事業活動支出の部						
特別支出計	0		49		△ 49		
特別収支差額	383		382		1		
〔予備費〕		65				65	
基本金組入前当年度収支差額		△ 1,509		158		△ 1,667	
基本金組入額合計		△ 535		△ 815		280	
当年度収支差額		△ 2,045		△ 657		△ 1,388	
前年度繰越収支差額		△ 16,340		△ 16,340		0	
基本金取崩額		0		0		0	
翌年度繰越収支差額		△ 18,385		△ 16,997		△ 1,388	

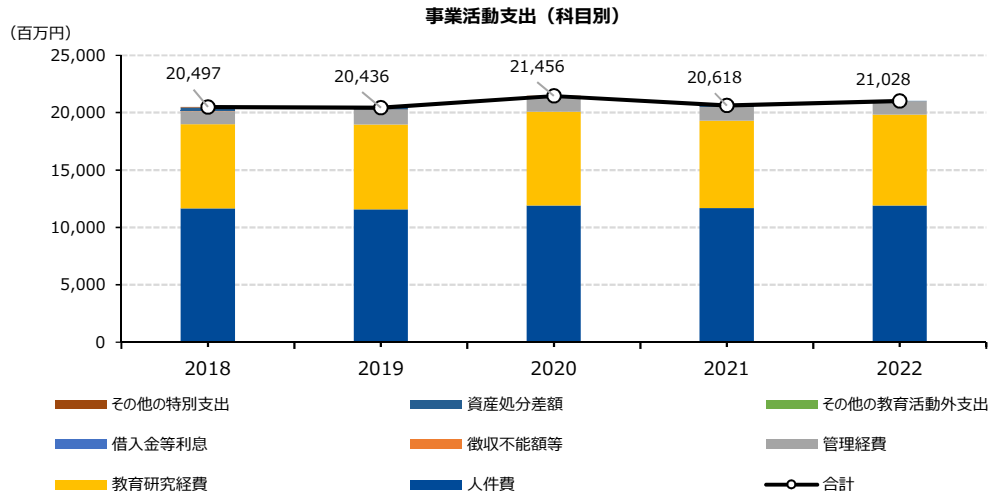
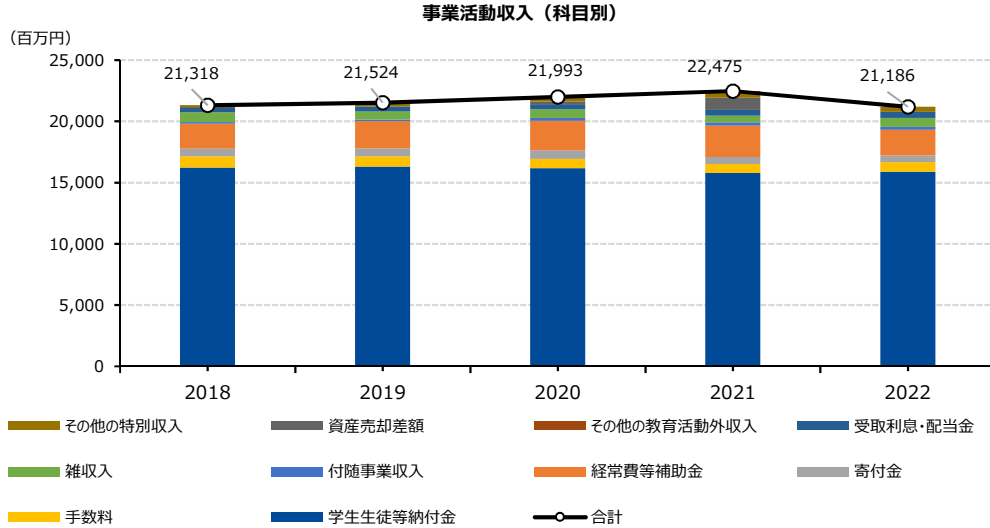
(参考)

事業活動収入計	20,381	21,186	△ 805
事業活動支出計	21,891	21,028	863

※計算書において、単位未満を四捨五入しているため、合計等に差異が生じる場合があります。

よって、金額が百万円未満の項目には「0」と表示されている場合があります。

## (2)事業活動収支経年比較



## (3)貸借対照表（令和5年3月31日）

（単位：百万円）

科目	本年度末	前年度末	増	減
固定資産	99,136	95,007	4,129	
有形固定資産	61,006	55,012	5,994	
土地	4,229	4,229	0	
建物	39,101	33,813	5,288	
構築物	1,832	1,822	10	
教育研究用機器備品	3,161	1,379	1,782	
管理用機器備品	141	138	3	
図書	11,498	11,373	125	
車両	5	7	△ 2	
建設仮勘定	1,038	2,251	△ 1,213	
特定資産	20,892	24,105	△ 3,213	
その他の固定資産	17,238	15,891	1,347	
流動資産	14,244	15,193	△ 949	
現金預金	13,416	14,637	△ 1,221	
資産の部合計	113,380	110,201	3,179	

（単位：百万円）

科目	本年度末	前年度末	増	減
固定負債	9,933	6,021	3,912	
長期借入金	3,500	1	3,499	
流動負債	4,392	5,283	△ 891	
負債の部合計	14,325	11,303	3,022	

科目	本年度末	前年度末	増	減
基本金	116,052	115,237	815	
繰越収支差額	△ 16,997	△ 16,340	△ 657	
翌年度繰越収支差額	△ 16,997	△ 16,340	△ 657	
純資産の部合計	99,056	98,898	158	
負債及び純資産の部合計	113,380	110,201	3,179	

※表において、単位未満を四捨五入しているため、合計等に差異が生じる場合があります。

## 8. 施設部門の現況

### (1) 耐震対策工事の進捗状況

東日本大震災の発生を受け、平成 24 年 10 月 10 日に校地校舎等整備委員会特別部会「学習院キャンパスプラン検討委員会」が策定した「早急に耐震工事を要する諸施設に関する基本方針」に則り、令和 4 年度・令和 5 年度に予定した諸工事の状況は次のとおりです。

- 東 1 号館の新築工事

令和 2 年度始めに 3 か年計画で着工後、令和 4 年度も順調に工事が進み、令和 5 年 2 月 28 日に無事に竣工、引渡しとなりました。

- 旧大学図書館の耐震改修工事

令和 3 年度から設計業務に着手し、令和 4 年度に設計内容を確定、施工会社を選定しました。令和 5 年 4 月に着工し、令和 6 年 2 月末竣工引き渡し予定です。竣工後は「霞会館記念学習院ミュージアム」として活用することを予定しています。

- 女子大学 4 号館・女子部 B 館の耐震改修工事

令和 3 年 7 月に着工し、令和 4 年度末迄に、3 つの工区のうち西端から東側階段室までの 2 工区の工事が完了しました。令和 5 年度は東端までの最終工区の工事を進め、同年 8 月 31 日に竣工、引渡しとなりました。

### (2) 学習院大学東 1 号館の完成

2023 年 3 月 1 日、学習院大学東 1 号館の完成を祝し、高田總鎮守氷川神社ご神職により竣工式が執り行われ、耀 英一学習院長や荒川 一郎学習院大学長をはじめ、設計・監理を担当した株式会社日建設計、施工を担当した大成建設株式会社が参列しました。

東 1 号館は 2023 年 4 月 3 日より開館しています。

東 1 号館は総床面積 12,806 m<sup>2</sup>、地上 14 階、地下 1 階の規模で、大学図書館の機能を中心に、国際センター、ラーニングサポートセンター、大学院研究室等を併設した複合施設です。日本の近代建築の旗手である前川國男氏が設計した旧大学図書館の設計コンセプトを継承発展し、出会いやコミュニケーションを育む新しい「学生の集まりの場所」を目指し、「回遊性のあるキャンパス空間を形成する」「多様なニーズに応える場を創る」「緑をつなぐ」の 3 つのコンセプトで計画しました。

東 1 号館は目白キャンパスの西門や正門から離れた場所に位置しますが、求心力のある建物をキャンパスの奥に配置して学生を引き込むことで回遊性が生まれ、建設工事と併せて整備した中庭スペースと共に、4 月からは活気の溢れる空間になりました。

館内は利用者に応じた多様なニーズに応えられるように設計されています。1 階にはカフェ、国際センター、イベントスペースを、2 階から 11 階は大学図書館としての閲覧スペースの他、活発な意見交換ができるグループ学習スペースから静寂を求める個人学習スペースまで用意し、12 階から 14 階は大学院生の学習スペース等を配置しています。

東 1 号館の周囲には樹木が多くありますが、ガラス張りの外装とすることにより、目白キャンパスの緑が感じられる建物となっております。特に 2 階フロアには特徴的な張り出し構造の回廊に自習スペースを配置しており、四季の移り変わりを感じながら学習することができます。

学生の学びの拠点として、今後の学習環境の更なる深化が期待できます。

【外観】



【竣工式】



【エントランススペース】



【図書館スペース】



【緑に溢れた東1号館周辺】





## 9. 「学習院 VISION150」推進募金の現況

持続可能な社会の実現を担い、グローバルな世界で活躍できる人材を育成すべく、教育・研究の更なる高度化とそれらを推進するため、本院が取り組むさまざまな事業の資金に充当することを目的として募金活動を行っています。

学習院の持続的な発展のため力を尽くして参りますので、何卒ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

### (1)活動概要

名 称：「学習院 VISION150」推進募金

期 間：令和4（2022）年度～令和9（2027）年度

目 標 額：30 億円（5 億円/年×6 年）

募集方法：

#### I 単発型寄付

以下の寄付金種別（使途）から任意に選択 / 目安額なし

- ①教育改革推進資金（質の高い教育・研究に資するための資金に充当）
- ②学習院国際交流基金（学生・生徒等の国際交流を支援するための基金に充当）
- ③学習院奨学基金（奨学金を必要とする学生・生徒等のための基金に充当）
- ④課外活動助成基金（課外活動活性化のための基金に充当）
- ⑤各学校等指定寄付（希望する学校を直接支援するための資金に充当）
- ⑥緑化関連事業（3 キャンパスの緑化整備のための資金に充当）
- ⑦施設設備等充実資金（施設・設備を整備するための資金に充当）
- ⑧カーボンニュートラル推進資金（施設以外）（SDGs 実現に向けた環境整備事業の資金に充当）：令和5年6月より募集開始
- ⑨文化財保護資金（文化財の保護費用や本院の歴史を伝える活動に資するための資金に充当）：令和5年6月より募集開始

#### II 継続型寄付「学習院サポーターズ倶楽部」：令和5年6月より制度改定

クレジットカード決済とし、寄付者の方が、本院の指定する WEB 上で決済回数、金額、寄付金種別（使途）を設定

- ・ 決済回数 = 年1回、年2回、月1回から選択
- ・ 決済金額 = 1回あたり2千円以上（千円単位）として設定
- ・ 寄付金種別（使途） = 以下の中から選択（複数選択も可能）

- ①教育改革推進資金（質の高い教育・研究に資するための資金に充当）
- ②学習院国際交流基金（学生・生徒等の国際交流を支援するための基金に充当）
- ③学習院奨学基金（奨学金を必要とする学生・生徒等のための基金に充当）

\* 団体様の場合には以下の[ご寄付のお申込・お問い合わせ先]までお問い合わせください

※入学・卒業時の募金につきましては、別途ご依頼申し上げます。

### [ご寄付のお申込・お問い合わせ先]

TEL : 03-5992-9217 Email : bokincontact@gakushuin.ac.jp

## (2)募金入金状況（令和5年3月31日現在）

6か年計画の初年度である令和4年度の実績は5.71億円となりました。皆様方よりご厚志を賜り誠にありがとうございました。衷心よりお礼申し上げます。詳細は以下のとおりです。

種 別	寄付者区分	件 数	入金額（円）
教育改革推進資金	個 人	986	286,851,203
	内（入学時）	565	231,905,000
	法 人	20	11,885,000
	団 体	22	2,013,758
	計	1,028	300,749,961
学習院国際交流基金	個人・法人・団体	32	4,996,888
学習院奨学基金	個人・法人・団体	98	14,866,000
課外活動助成基金	個人・法人・団体	25	7,510,000
課外活動助成金	個人・法人・団体	132	42,055,000
各学校等指定寄付	個人・法人・団体	266	169,309,827
緑化関連事業	個人・法人・団体	45	1,252,000
施設設備等充実資金（※1）	個人・法人・団体	77	11,868,000
その他寄付金	個人・法人・団体	64	19,200,000
合 計		1,767	571,807,676

（※1）令和4年度は全て大学新東1号館建設資金

寄付者区分	件 数
父母保証人	733
卒業生	661
賛助員	77
教職員	26
篤志家	155
企業・法人・団体（※2）	115
合 計	1,767

（※2）桜友会・常磐会・父母会を含む



大学新東1号館  
（令和5年4月開館）

## 10. 令和4年度卒業生就職状況

### ■大学

令和4年度卒の内定率は98.1%で前年から0.8%増となりました。コロナ禍の影響が残るなか、良好な数字であったといえます。

企業の採用動向としては、令和4年度卒の新卒求人倍率\*が前年の1.50倍から1.58倍へ微増となり、業界や企業規模による差はあるものの、採用状況は全体として昨年、一昨年と比べ上向いている状況です。業界別に見ると、これまで採用中止や大幅減となっていた旅行や航空といった業界では、採用を再開したり、採用数を増やしたりする動きが出ています。また、情報・通信関連では活発な採用が続いており、本学学生の内定企業の業界分布としては、昨年度に続き、公務員、金融とともに、大きな割合を占めています。

学生側に目を向けると、コロナ禍で学生同士の接点が少ないこともあり、就職活動に対する意識と行動の個人差はますます大きくなっています。身近な先輩や友人からの情報がなく不安に思う学生も多くいます。こうしたなか、キャリアセンターでは、個別面談の枠を前年比で約2割増やし、個々の学生の相談に応じています。また、3年生向けに、キャリアサポーター（4年生内定者）との交流会を対面で開催したほか、4年生向けには、採用試験の時期にあわせてグループディスカッション講座や面接練習会を実施したり、就職活動が長期化している学生を個別にフォローしたりするなど、各々の状況に合わせた多様な支援を行いました。

\*リクルートワークス研究所「第39回 ワークス大学新卒求人倍率調査（2023年卒）」

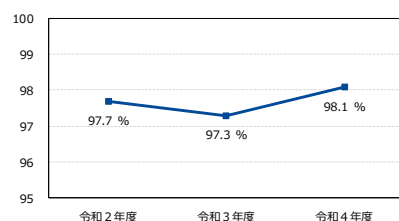
□大学院

研究科	修了生	進学 その他	就職 希望者	就職 内定者	内定率	
博士前期	法学研究科	0	0	0	0	-
	政治学研究科	3	1	2	2	100.0%
	経済学研究科	2	1	1	1	100.0%
	経営学研究科	7	3	4	4	100.0%
	人文科学研究科	50	25	25	23	92.0%
自然科学研究科	46	3	43	43	100.0%	
博士後期	法学研究科	0	0	0	0	-
	政治学研究科	0	0	0	0	-
	経済学研究科	1	1	0	0	-
	経営学研究科	1	1	0	0	-
	人文科学研究科	2	0	2	2	100.0%
自然科学研究科	3	2	1	1	100.0%	
専門職大学院（法務）	7	7	0	0	-	
大学院合計	122	44	78	76	97.4%	

□採用実績上位企業（学部）

企業名	人数
東京23特別区人事委員会	19
アクセンチュア（株）	14
（株）千葉銀行	12
（学）学習院	11
日本生命保険（相）	10
千葉県市町村（除：千葉市）	9
東京都教育委員会	9
埼玉県市町村（除：さいたま市）	9
SMBC日興証券（株）	9
三井住友信託銀行（株）	8
（株）りそなホールディングス	8

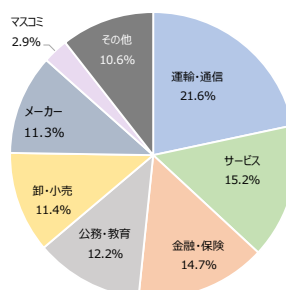
□過去3カ年の就職率の推移（学部）



□学部

学部・学科	卒業生	進学 その他	就職 希望者	就職 内定者	内定率	
法学部	法学科	247	31	216	210	97.2%
	政治学科	227	23	204	202	99.0%
法学部小計	474	54	420	412	98.1%	
経済学部	経済学科	256	22	234	227	97.0%
	経営学科	243	25	218	215	98.6%
経済学部小計	499	47	452	442	97.8%	
文学部	哲学科	95	22	73	69	94.5%
	史学科	88	20	68	68	100.0%
	日本語日文学科	112	19	93	91	97.8%
	英語英米文化学科	108	9	99	98	99.0%
	ドイツ語圏文化学科	50	4	46	44	95.7%
	フランス語圏文化学科	69	12	57	55	96.5%
	心理学科	89	22	67	67	100.0%
教育学科	50	10	40	40	100.0%	
文学部小計	661	118	543	532	98.0%	
理学部	物理学科	41	27	14	13	92.9%
	化学科	42	19	23	23	100.0%
	数学科	59	12	47	46	97.9%
	生命科学科	50	19	31	30	96.8%
理学部小計	192	77	115	112	97.4%	
国際社会科学部	国際社会科学科	190	19	171	170	99.4%
学部合計	2,016	315	1,701	1,668	98.1%	

□業種別就職先一覧（学部）



■女子大学

令和4年度卒業生の就職内定率は、前年度から1.5%上昇し99.0%となり、高い数字を維持することとなりました。

企業の採用意欲は回復傾向にあるものの、コロナ禍前のような新卒求人倍率には戻らなかった状況において、内定率がコロナ禍前と同様の99%台となったことは、学生が大いに健闘した結果と言えます。ここ数年、複数のメディアにおいて、私立女子大学の中で有名企業・大企業に強い大学として評価されており、令和4年度についても、高評価となることが期待されます。

採用上位の業種については、サービス業、運輸・通信業の占める割合が、昨年度以上に大きくなっています。これは、学生に人気の高い航空業界や旅行業界が、コロナ後を見据えて採用再開に動き出したことが一つの要因と考えられます。

昨年度に引き続き、コロナ禍により人とのつながりが分断され、周囲の様子が分からず、就職活動に不安を感じる学生が多く見受けられました。そのような中、キャリア支援部では、支援の基本方針を「個人面談」とし、1人1時間の枠を設け、学生に寄り添ったきめ細やかな対応を行い、個々の経験や強みを引き出すことを大切にしました。また、面談やセミナーは、オンラインを中心とし、対面と同等のクオリティを提供し続けることを目指しました。オンラインによるキャリア支援は今年度で3年目となり、遠隔方式が定着し、より洗練されたものとなりました。

□大学院

研究科	修了生	進学 その他	就職 希望者	就職 内定者	内定率
国際文化交流研究科	6	1	5	5	100.0%
女子大学 大学院合計	6	1	5	5	100.0%

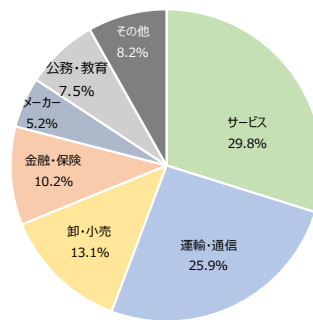
□学部

学部・学科		卒業生	進学 その他	就職 希望者	就職 内定者	内定率
国際文化 交流学部	日本文化学科	141	14	127	125	98.4%
	国際コミュニケーション学科	166	23	143	142	99.3%
	英語コミュニケーション学科	44	6	38	38	100.0%
女子大学合計		351	43	308	305	99.0%

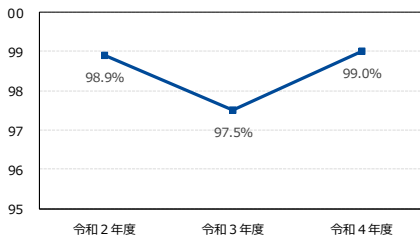
□採用実績上位企業（学部）

企業名	人数
ベリーベスト法律事務所	4
楽天カード（株）	3
（株）マイナビ	3
（株）USEN-NEXT HOLDINGS	3
パーソルプロセス&テクノロジー（株）	3
（株）JTB	2
（株）ファーストリテイリング	2
三井倉庫ホールディングス（株）	2
（株）JALナビア	2
埼玉県市町村（除：さいたま市）	2

□業種別就職先一覧（学部）



□過去3カ年の就職率の推移（学部）





# 11. 令和5年度入学試験結果

## 入学試験結果

※令和5年4月入学（令和5年4月1日現在） ※試験結果はすべて一般選抜・一般入試

### ■大学

#### □大学院

	志願者	合格者
法学研究科	0	0
政治学研究科	0	0
経済学研究科	1	1
経営学研究科	3	2
人文科学研究科	26	18
自然科学研究科	3	3
法学研究科	5	0
政治学研究科	13	4
経済学研究科	9	3
経営学研究科	13	2
人文科学研究科	187	69
自然科学研究科	25	17
大学院合計	285	119

	志願者	合格者
法務研究科	152	46
専門職大学院合計	152	46

### ■女子大学

#### □大学院

	志願者	合格者
国際文化交流研究科	5	3
大学院合計	5	3

### ■高等科～幼稚園

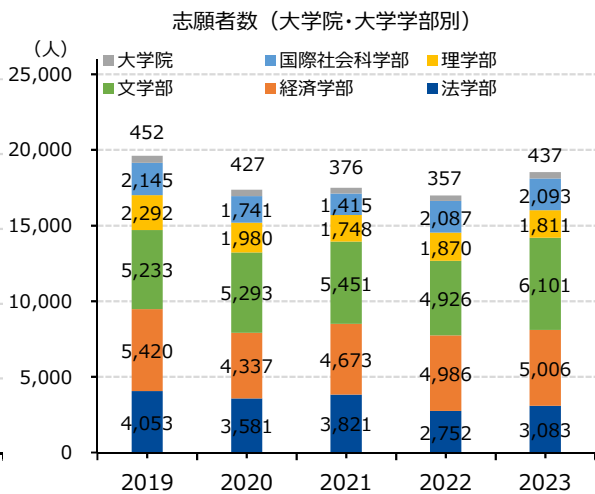
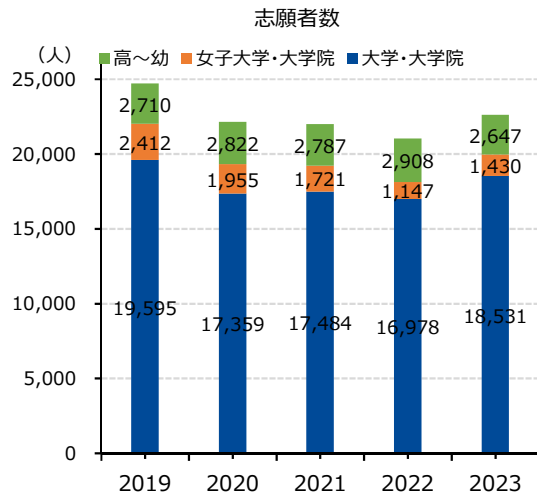
	志願者	合格者
高等科	174	40
中等科	815	207
女子中等科	671	153
初等科	778	121
幼稚園	209	55

### □学部

		志願者	合格者
法学部	法学科	1,942	503
	政治学科	1,141	336
経済学部	経済学科	2,797	778
	経営学科	2,209	476
文学部	哲学科	654	158
	史学科	1,390	362
	日本語日本文学科	656	240
	英語英米文化学科	1,098	349
	ドイツ語圏文化学科	558	141
	フランス語圏文化学科	394	102
	心理学科	635	92
理学部	教育学科	716	195
	物理学科	419	155
	化学科	546	122
	数学科	410	116
国際社会科学部	生命理学科	436	114
	国際社会科学部	2,093	573
学部合計		18,094	4,812

### □学部

		志願者	合格者
国際文化交流学部	日本文化学科	517	337
	国際コミュニケーション学科	782	429
	英語コミュニケーション学科	126	81
学部合計		1,425	847



## 12.父母会・桜友会・常磐会

### (1)父母会

学習院父母会は学習院が設置する大学から幼稚園までの各学校に在学する学生、生徒、児童及び園児の父母保証人 13,500 余名を会員としています。設立は昭和 22 年 3 月で、私学学習院と共に発足し今日に至っています。事業としては、学習院父母会奨学金、課外活動等助成のほか、学生活動、共同施設等整備、輔仁会活動、大学・女子大学の広報誌発行、催物等（オール学習院の集い、日本の文化にふれる会、チャリティー関連）、学習院輔仁会ユース・フィルハーモニック、沼津游泳会、ボーイスカウト、MOS 資格試験受験料に対する助成を行っています。学習院が主催する全国公開講演には後援者の一員として参加し、講演会に参集した地域父母会員との交流に努めています。

また、父母会から法人の理事、評議員を選出するなど学習院の経営に参画しています。

・父母会 ホームページ

<https://gakushuin-fubokai.jp/>

### (2)桜友会

学習院桜友会は、2021 年に設立 100 周年を迎えた全学習院の同窓会組織です。現在 148,000 余名の卒業生団体として、学校法人学習院への支援、会員相互の親睦、社会貢献を三つの柱として活動しています。

全国・海外支部、学校・学部同窓会、職域、輔仁会 OB・OG 会のそれぞれには桜友会組織があり、縦横の強い繋がりがあります。この繋がりを活かして、在学生へのセミナー、講演会、就職活動支援、留学生への支援を行っています。給付奨学金の支給や、顕著な成績を収めた部活動及び生徒への褒賞金の授与も実施しています。

また、法人の理事、評議員を選出し、教職員、父母会とともに学習院の経営に参画しています。

・桜友会 ホームページ

<https://www.gakushuin-ouyukai.jp/>

### (3)常磐会

学習院女子中等科・高等科卒業生の会である一般社団法人常磐会は、今年で 128 年の歴史を持ち、現在会員数約 14,000 名を数えます。受け継がれている伝統を尊重しながら、①会員相互の親睦（懇親会・菊寿会・チャリティー講演会・チャリティーバザー・1 日ツアー・オール学習院の集い参加教養部作品展・会報誌の発行・ホームページによる情報の発信等）、②母校への支援（奨学金給付・「在校生と卒業生の交流会」の後援等）を、二つの大きな目的として、積極的に活動・運営しております。

また、法人の理事、評議員の選出に係わりを持つなど法人の事業運営に深い繋がりをもっています。

・常磐会 ホームページ

<https://tokiwakai.org/>



Since 1877

◆◆ 2027年 学習院は創立150周年を迎えます ◆◆

【参考：令和4年度 事業報告書】

<https://www.gakushuin.ac.jp/houjin/kikaku/pdf/houkoku04.pdf>

## 令和5年度 賛助員会報告書

発行日 令和5年10月1日

発行者 学校法人学習院 総務部総務課

編集者 学校法人学習院 総務部総務課

〒171-8588 東京都豊島区目白1丁目5番1号

電話 (03) 5992-1191

\* 掲載内容の無断転載を禁じます